年度 2008 前期／後期	曜日・校時　　火曜日・1校時	選択	単位数　2
授業科目/(英語名)	日本国憲法　（生きた憲法の理論と実践） The Constitution of Japan（Theories and Practices of Our Living Constitutional Law）		
対象年次　1・2年次	講義形態　講義	教室　201	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類　人文・社会科学科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
担当教員：新井信之/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：arai@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp/研究室：長崎外国語大学/TEL：　095-840-2000/
オフィスアワー：授業終了後

担当教員(オムニバス科目等)	

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標　(500 文字)

授業のねらい：本講義は、私たちが直面する社会問題の解決のために、生きた憲法の理論と実践について考える。

授業方法：憲法問題をさまざまな角度から検討するために、ビデオ教材等を活用するメディア・リテラシーの教育手法をとりいれて、私たちの日常生活と憲法とのかかわりについて理解を深めていく。

授業到達目標：現代社会における諸問題を素材として、憲法がそれらとどのようにかかわりをもつか、さまざまな角度から検討を試み、社会生活の中の“生きた憲法”について理解を深めることを目標とする。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)　(1300 文字)

授業内容（概要）

本講義は、日本国憲法における「統治機構」および「基本的人権」の基本的事項について、授業のねらいを踏まえて解説をおこなう。

第１回：近代立憲主義憲法の基本理念
第２回：日本国憲法制定の歴史的背景
第３回：国民主権と民主的な統治システム
第４回：象徴としての天皇の地位
第５回：戦争放棄と平和・国際協調主義
第６回：生命の権利と自己決定権
第７回：子どもの発達の権利と最善の利益
第８回：パーソナルメディア時代の表現・言論の自由
第９回：男女共同参画社会と法の下の平等
第 10 回：高齢者の人権―三つの自由について
第 11 回：公開討論会と政治活動の自由
第 12 回：地方分権と住民投票
第 13 回：司法制度改革と裁判所
第 14 回：憲法改正論議の問題点
第 15 回：授業のまとめ

キーワード	生きた憲法
教科書・教材・参考書	テキスト・・・・・畑・阪本編『憲法フォーラム（改訂版)』(有信堂、２００５年) 参考文献・・・・・畑博行編『現代法学入門』(有信堂、２００４年)
成績評価の方法・基準等	定期試験（６０%)、授業中に実施する小テスト・自由研究レポート・授業への貢献度・授業態度等の平常点（４０%）を総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	なし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	今日の憲法改正の動きに対して、主権者として責任ある判断をすることのできる知識と法的思考能力を修得することを目標とする。
備考(準備学習等)	授業は、単なる知識の伝達の場ではなく、包括的な人間教育の場であることを自覚して参加するよう学生諸君に求めます。